

# 絆

赤井むつみ後援会便り第58号

笑顔あふれる温かい町に！

2022年12月 発行



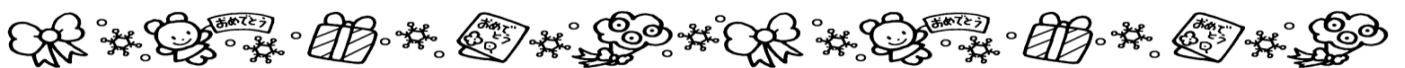
## 今年も大変お世話になり、 ありがとうございました！

今年も残りわずかとなってしまいましたが、皆さまにとって今年はどうな年でしたか？  
コロナが収束するどころか、感染範囲がどんどん広がり、八雲町の学校でも学級閉鎖や学校閉鎖が見られました。そんな中でも、国では経済をストップできないとの理由から、行動制限はせず、海外からの観光客の受け入れも始まり、国内の旅行割も行われています。オミクロン株の感染力は強いけれど、重症化しないことと、ワクチン接種が進んでいるということもあると思います。そして、おかげさまで八雲山車行列も今年は開催することができました。もちろん、実行委員会の中でも、強く反対する意見も出ましたし、結果的に参加しない団体も複数ありました。開催・参加を決めた私達も、全く不安がなかったわけではありませんが、日程を1日に短縮し、開会式も打ち上げも行わないなどの対応をしました。大々的なPRも控えましたが、当日は多くの皆さまが集まって下さり、来年こそは、通常の上車行列ができるようにと気持ちが一致したことはとても良かったと思います。



議会での1年間を振り返ると、反省ばかりの1年だったと猛省しています。議会報告会の八雲会場では、サーモン養殖に対する話し合いを通じ、課題に対する深堀ができていない自分を痛感し、熊石会場では、大きな力に太刀打ちできない非力さを痛感しました。もちろん、そのことに対しては、今後もあきらめずにしっかりと取り組み、少しでも良い方向へ進むことができるよう全力で取り組んでいきます。ただ、後半になって、議会運営委員会の中でも、もっと議会力を高めたいこうという雰囲気が出てきたことは、力強く感じています。来年はこのことが良い成果につながるようさらに努力します。

文厚委員会として、多くの皆さまのご協力のもと、子育てアンケートの実施や、ヤングケアラーの研修会を開催できたことは、何よりの喜びで、心から感謝すると共に、この結果をしっかりと活かしていこうと思っています。本当にありがとうございました。



生涯学習フェスティバルで、初めて『マリオカート大会』を開催しました。自分自身はゲームは全くやりませんし、子ども達にも良い影響があるとは思っていないのですが、今回の大会で、親子で盛り上がる姿を見て、違う世界が見えました。次回の開催も強く要望されました！

## 一般質問



### 1 『ごみの減量化と活用を！』

以前も同じテーマで質問しましたが、その後の進捗状況も含め、次の4点についてお伺いします。

- ① 生ごみの分別はどの程度進み、町民の間に分別の重要性がどの程度認識されてきたでしょうか。そして今後の取り組みを教えてください。
- ② ごみの減量化については、子ども達にも十分意識することで実践してもらえと思っています。以前の質問で、子ども達も巻き込んで取り組むとの答えをいただきましたが、その後の取り組み状況を教えてください。
- ③ 乳児用・介護用の紙おむつのゴミが、今後さらに問題になるということで、富良野市に視察に行き、今後研究するとの答弁でしたが、その後の研究成果と取り組みをお伺いします。
- ④ 今やプラスチックゴミは世界的な課題で、2050年の海は、魚の量よりプラスチックごみの量が上回ると言われています。日本でただ一つ、日本海と太平洋の二つの海を持つ八雲町として、今後どのような対策をお考えでしょうか。

### 答弁

- ① 生ごみは分別に手間がかかり、夏場は腐敗しやすいということで、なかなか分別が進んでいない。今まで市街地限定だった生ごみ収集を、週2回収集される国道沿いや落部地区が可能かどうか検討し、収集地区の範囲拡大をしていきたい。
- ② R3年度は野田生中学校がSDGsの観点から「八雲町を考える」をテーマに、ゴミの処理状況、リサイクルの現状の学習会を行う。R4年度は4年生が、ごみの分別による資源物がリサイクルされて製品になり、ゴミの減量化につながることを学習。今後も学習の機会を場を継続して設ける。
- ③ 富良野市では、民間企業がオムツの燃料化に取り組んでいるが、処理コストが1t当たり62,700円、渡島廃棄物処理広域連動の負担が1t当たり43,700円でコスト高となっている。富良野市の民間企業が新たに機械を導入し、実証実験を行う計画もあるので、実用化されたら視察を計画。
- ④ 八雲地域は北海道、八雲漁協と連携し、漁業者・事業所・ボランティア団体に呼びかけ、6月5日に山崎、黒岩区間の海岸清掃を実施。熊石地域では、年2回クリーンアップ作戦として、各町内会と事業所が主体となって海岸清掃を実施。

### 再質問

- ・生ごみを捨てるコンポストが近くにあると捨てやすいし、臭いもほとんど出ない地中に埋めるコンポストもあるので、地域の中で実験的に取り組んではどうか。
- ・SDGs的に考え、給食を食べ残さないなどフードロスの取り組みができるのでは。
- ・幌延町では近隣5町で9億円の機械を購入し、オムツと廃材でペレットを作り、高齢者施設の給湯用ボイラーに使用。是非、多くの情報を集めて検討してほしい。
- ・ペットボトルの分別収集を請け負い、Tシャツ等にリサイクルする会社もあるので情報を得て、一緒に取り組んではどうか。また、ニュージーランドでは、廃棄されたプラごみを利用し、そのままコンクリートブロックを作る方法を実現。軽くて運搬もしやすく何より耐久性に優れているということなので、是非、調査研究し取り組んでほしい。

**答弁** 近隣町との連携も含め、民間企業とも相談しながら、ゴミの対策・活用を研究する。

## 2 『人口減少に向けて、情報共有・課題共有を！』

日本全体が、今まで経験したことの無い少子化・人口減少に向かって突き進んでいます。

八雲町も毎月の人口が減少していることは分かりますが、それによって10年後、20年後はどのような状況になっているのでしょうか。今とは違った課題が出てくると思いますが、是非、小中高生を含めた町民と共に、情報共有・課題共有をしながら、少しでも改善できるように、10年後、20年後、そして未来のまちづくりについて、話し合いの場を作っていきませんか。

人口減少により、みんなで知恵と力を合わせなければ、元気な八雲町は維持できないと思いますが、町長のお考えをお伺いします。

### 答弁

人口減少等、地域の課題解決や活性化を図るためには、住民の意見や提案をしっかりと受け止める体制作りが重要。今後は、各課が進める施策の内容にもよるが、若者が参加しやすい情報交換の機会やSNS等を活用したアンケート調査を導入するなど工夫を凝らす。

### 再質問

札幌では『学びまくり舎』という民間団体に行政や大学の先生等も加わり、高校生と「こんなまちになるために、私はこうしていきたい」という話し合いを重ね、1年に1個ずつ実現していくそうです。また、兵庫県加古川市の高校と加古川市とで、産業振興や教育などいくつかの分野に分かれて話し合う中に、NECが地域貢献のためプロボノというクラブを立ち上げ、ビジネスデザインやエンジニアリング等のスキルを持った職員が高校生や行政職員と一緒にICTを活用して、まちづくりの話し合いと一緒に取り組んでいるそうです。NECに限らず、行政と民間、そして高校生と一緒にまちづくりに取り組むことで、空き家対策や産業に対していろいろ話し合い、実践を通して八雲町が大好きになると思うので是非、そういった取り組みを検討してほしいと思います。

### 答弁

熊石ではリングローと地域の人たちが、まちづくりに関わっている。また、高校生ではないが熊石の若い人たちと議論を交わしながら、移住・定住についても考えている。NECの話も、大変興味深いので、情報を得ながら一度訪問してみたいと思う。民間のいろいろな会社にアプローチしながら積極的にやっていきたい。



人口減少が進むと町の収入も減り、交付税も減って来るので、町として使えるお金が少なくなっていきます。でも、健康や福祉、教育に関するお金を削るわけにはいかないので、ゴミ処理にかかる費用など節約できるところは、みんなで知恵を出し合い協力して節約していかなければなりません。そのためにも生ごみを始め、ゴミの分別は欠かせない取り組みとなります。ただ、生ごみの処理は面倒で、なかなか進んでいないのが実態です。袋に入れなくても、ざるのまま捨てに行けるところが近くにあると、捨てやすく便利だと思いますし、長野県の自治体のように『生ゴミ出しません袋』という生ごみ以外の燃やせるゴミの袋を無料で年間60枚配布するなど、分別の意義を理解し、実践できる方法を検討することが大切だと思います。

少子化と共に高齢化も進んでいるので、乳児のオムツは減っても、介護用のオムツは増えています。こうしたオムツも、捨てるのと燃やせるゴミになりますが、自治体によってはオムツの会社と連携し、使用済みオムツを薬品で分解して新たなオムツやペットシートを作ったり、間伐材等を混ぜ、燃料のペレットにして活用している例もあります。どの方法が最も取り組みやすく、続けていけるかをしっかり研究して、出来るだけ早く実践してほしいと思いますし、そのためには町民とともに話し合いながら進めていくことが大切だと思っています。

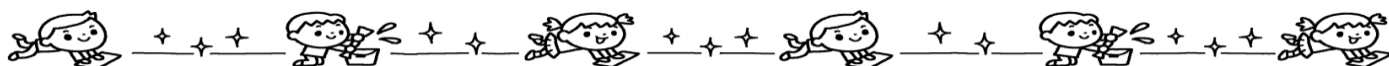
## 《補正予算の主なもの》

- ◎漁業振興設備等整備事業補助金 1,240万円
  - ・落部の藻場再生 ・鉛川箒洗い機 ・八雲漁協保管倉庫のクレーン車
- ◎アイヌ農林漁業対策事業補助金 5,991万3千円
  - ・全自動耳吊り機 19台分 ・サーモン種苗生産施設整備事業の財源内訳変更
- ◎橋りょう解体工事請負費 1億1,700万円
  - ・国の事業で2か年計画で行う
- ◎公共土木施設災害復旧工事請負費 9,220万円
  - ・ペンケルペシペ川と鉛川の護岸決壊修理を国の災害復旧費で行う

★来年度から、2年に1歳、地方公務員の定年年齢を引き上げ、令和14年度には65歳定年となることを受け、条例改正を行いました。

その中で、今まで行われていた再任用制度は今年度で廃止となります。

また、60歳に達した職員の次年度の給与は、7割支給となります。



## 《文厚委員会への報告より》

- ・八雲小学校1・2年生の25人学級を実現するため、来年度と再来年度に1名ずつ職員を採用し、少子化により人数が減ってきた場合には役場職員として勤務することになりました。
- ・成人年齢が18歳に引き下げられましたが、八雲町では1月8日（日）シルバープラザで『二十歳の集い』が行われます。
- ・旧熊石高等学校公宅を取得（購入）し、お試し住宅など移住・定住に向けた取り組みを予定しているとの報告がありました。



もうすぐ2023年になります。

2023年は癸（みずのと）卯年で、「これまでの努力が花開き、実り始める」と言われています。12年前の卯年には東日本大震災が起きました。あまりに被害が大きすぎて、元の生活に戻ることは今でも難しいのですが、被災者の皆さまにとって少しでも実り多い年になるよう、心から願っております。そして、世界が本当に平和になってほしいですね。

**2023年もよろしくお願い致します!**

コロナも、ロシアの他国攻撃も未だ終息せず不安いっぱい年越しになりそうなのに、原発や防衛費に対する考え方は、とても正気の沙汰とは思えません。一人ではどうしようもないことも、みんなで知恵と力を合わせ、行動することで、小さな幸せを積み重ね、大きな平安へとつなげていきたいですね。心身ともに健康に過ごしましょう!

赤井むつみ後援会連絡先 八雲町住初町126

FAX=62-3632 電話=080-5588-2090（赤井）

赤井自宅 栄町56-12（栄町3区） ☎ 63-2090

ホームページは「赤井むつみ」で検索してください!